

科学でなんでもわかってしまうの？ ...
ぜんぶわかるほど世界は簡単じゃあない

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Shibata, Masayoshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31943

「わ

かる」ってどういうことか
を考えてみると、科学です
べてがわかっちゃう、なん
てありそうも無いと思います。人が何
かをわかったと言う場合、普通は、ふ
たつのことが意味されています。それ
は、(A) 自分の目や耳で事実を確か
めた場合のように「それがあるがま
まに受け入れた」ということか、あるい
は、(B)すでに自分が受け入れた事
実から「それが説明できた」、とい
うことでしょうか。

ところで、物理学や化学のような自
然科学であれ、社会学や経済学のよ
うな人文科学であれ、科学が提供する
「説明」は、基本的には「どういう仕
方でそうなるの(how)?」という
問いに対する答えであって、「なぜそ
うなの(why)?」という問いに対
する答えではありません、このふたつ
の問いは、とても紛らわしいです
が、前者は「原因による法的説明」、
後者は「理由による正当化」を求めて
いるのです。「どうして春になると桜
の花は咲くの?」という問いと、「な
ぜ泥棒をしてはいけないの?」とい
う問いの違いです。

そこで、量子力学から心理学に至る
すべての科学の説明がうまく具合に
なかり、それらの扱った現象がすべて
もなく説明されるようになったとしま
しょう。しかし、そんなありそうもな
い場合でも、人は依然として(A)の
ような事実、つまりすべての説明の最
初の根拠について、「それはどうい
う仕方でそうなっているのか?」と問
うことでしょうか。いえむしろ、「宇宙の
始まりはどうしてそういう風に始ま
ったのか?」といった具合に、人は根拠
の根拠を問わずにはいられないのです。
そこでこういう場合、「説明」に何
が起きるかという、次の三つの可能
性しかないと言っているでしょう。
(1) 説明の根拠をどんどんさかのぼ
っていったら、説明に終わりがなくな
る。(2) Iを説明するのがMであり、
Mを説明するのがSなのだけれども、
Sを説明するのは元のIである、とい
う具合に説明がぐるぐる循環する。
(3) 根拠へ無限にさかのぼるのは嫌
だから、どこかで「えいやっ」と勝手
に説明を打ち切る。

この三つの場合も、科学に説明
できないもの、つまり「わからない」
ものが残ってしまうでしょう。
さて、先に述べたように、「なぜ
why」という「理由による正当化」
の問いは科学の問いではないのですか
ら、その答えも、(もしあるのなら)
科学によってわかるものではないでし
ょう。「なぜこの世に悪はあるのか?」
といったような、人である限り、ど
うしてもなく問いたくなるこういう問
いこそ、本当に問うべき問いなのだ
と考える哲学者は少なくありません。
たとえば、あなたの両親はなぜこの
世で出会ったのでしょうか? あなた
はなぜ生まれてきたのでしょうか?
「なぜ何もないのではなく、何かがあ
るのか」と問うてきた多くの哲学者た
ちのように、人は有限な存在だからこ
そ、科学ではわからない多くのことを
問わずにはいられないのです。世界は
謎に満ちています。だからこそ面白い。

柴田 正良先生

1953年大分県生まれ。東京
都清瀬市立芝山小学校、
同市立第二中学校、
東京都立東久留米高校、
千葉大学を卒業後、名
古屋大学大学院博士課程を
満期退学。現在、金沢大
学人文学類教授。著書に
『ロボットの心』(講談社
現代新書)がある。

子どもの難問

哲学者の先生、答えてください!

子どもが抱く素朴な疑問には、
実は、哲学の本質がぎゅっと詰まっています。
親も答えるのが難しい。そんな「難問」に、
毎回2名の哲学者が真剣にお答えします。

ぜんぶわかるほど 世界は簡単じゃあない

